

^ 13
3229
5



門 へ 13
3229
5

松月露譚序

聞之。兩漢之時。小說家者流。十五
家。千三百八十篇。蓋出於稗官。自
是其後。稗史之作。盛乎唐宋。甚乎
元明。至乎清。而益致其多。彼致其
多。之習。遂波及于我矣。於是乎當

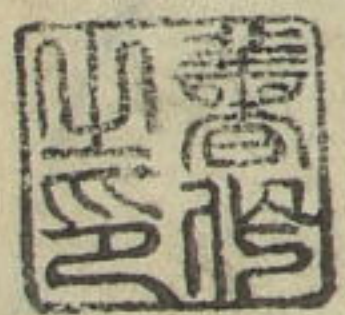
松月露

昭和十年
七月四日
購

今我邦稗官。前後所著。汗牛充棟。大爲昇平盛事焉。余亦倣其盛事。而輯錄此編。昉于露窪之長家。乘畢于松露寺。往牒焉。因名曰松月露談。庶幾將俾人。因因果應報之事。頓然開悟。勸其善。黜其惡耳。雖

然書不盡言。言不盡意。則若其不憚。何加之書。舖頻急發。販而先刊。前篇三卷。讀者竢。後篇發販。而洞覽一回。以備自家鑒識。則幸甚云。爾。文政乙酉秋日。

南仙舍山人題



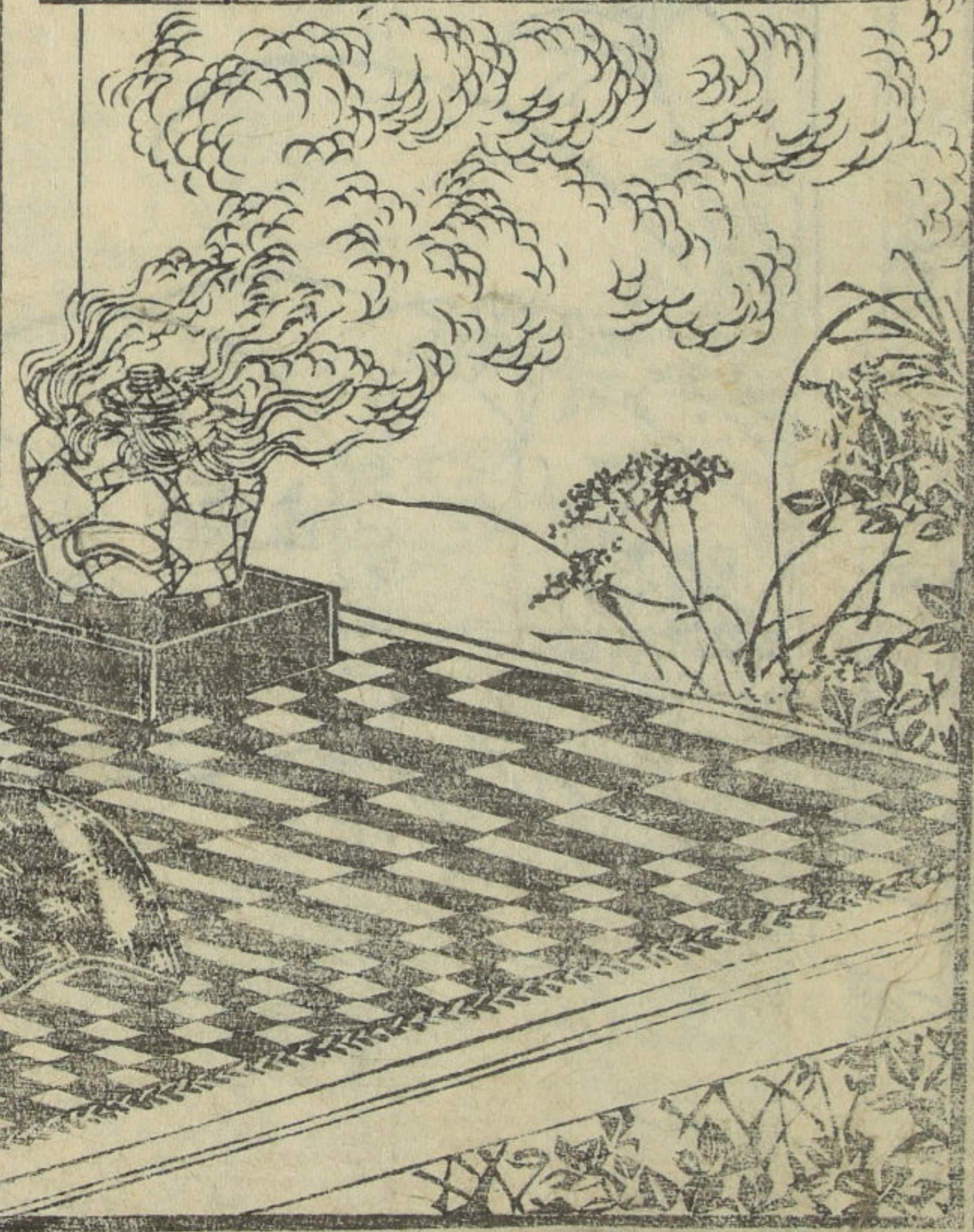
採擷野語如秋
草滋薰藉說別
見于卷外
秀軒醉題



梓市子以之
加少妙也
林北色
秀軒全



女子倡男男守清男



子復生却寄情男

子豈知有昧契

說得因果

無子成

君山書



つれなくもふり移るる玉川の
 心ほさる松蔭され家と滑てえ松が
 枝とあれる月のえりあればま
 せれきてむりさるる面影の
 かされるをさよまひつたもぬ
 成るよも繁りありと志るる也

墨本堂作



松月 玉川日記卷之一

江戸 南仙笑楚満人作

第一回

榎津の園芦屋のさく味沼村は慶女堀といひ
 ありおほくさ云往古遠里は一人の女あり其名を
 うるまひ女といふ然るは男二人あり俱よこれと
 菟名負女といふ然るは男二人あり俱よこれと
 慕ふ一人は諸國の住人名をばく多といひ一人は
 和泉の山の住人智勢といひ其形おるび志共

更さらは勝せう劣りつあり。爰こゝは女おんなの父ちちのいそぐ。汝なんぢも
二人ふたりともよは田いり川がわのあそを射いてよく中あたくる者もの
と壻むこよせんといふ。則すなはち二人ふたりの男おとこあらしひくこれを
射いるよ一人ひとりの尾おしと射い一人ひとりの尾おしと射いるかの
女おんな二人ふたりの射いはむとの勝せう劣りつありたを感かんじて一ひとはひ
ぬあそをうづけて津つの國くにの生い田いの川がわの名なのみるると
けつとあそを射いて終ついは力を投なげて二人ふたりの男おとこ
も生い田いのあそを底そこへ飛と入いる。あつくとそのあそを

とらへて列りす。その後のち三人ふたりの死し骸がいを取とりて。こゝを
埋うむ。二ふた士の墓むらち女おんな塚づかの側そば東西とうざいありといふ。又またお
のむ身み梨なしの油あぶらは男おとこと女おんなとをきりて曼まん児じが物ものが下した
総そうの國くにと向むかひの古ふる那なの故ふる変へんるといふ。皆みな同日どうじつの
終ついくつとあそを射いて終ついは力を投なげて二人ふたりの男おとこ
とよは田いり川がわのあそを射いてよく中あたくる者もの
と壻むこよせんといふ。則すなはち二人ふたりの男おとこあらしひくこれを
射いるよ一人ひとりの尾おしと射い一人ひとりの尾おしと射いるかの
女おんな二人ふたりの射いはむとの勝せう劣りつありたを感かんじて一ひとはひ
ぬあそをうづけて津つの國くにの生い田いの川がわの名なのみるると
けつとあそを射いて終ついは力を投なげて二人ふたりの男おとこ
も生い田いのあそを底そこへ飛と入いる。あつくとそのあそを

二五
一
三
因果のものがあつて是も今もなほ
あつてけん。須布やさらす垣根とよみくうし。武蔵の
必玉川のそらう。酒布屋。杏太。つてしよ者あり。
あつてしよ時。いそぐ。食へかつと。かき。いそぐ。や
俄は福あつて。あつて。奴僕あつて。かく。布を酒で
て。家業とせし。よ。な。ぶ。う。の。間。は。須。布。は。葉。が。う。も
る。兒。分。限。者。と。う。つ。と。く。入。み。る。須。布。の。名。を。と
めて。な。や。し。ぬ。妻。ハ。先。達。と。み。ま。が。り。志。道。が。み

二五
一
三
又お給とて。今年之五のまを。送へくりと。義貞
あつて。娘あり。斯く。杏太。つて。輪。取。は。早。又。向。と
せし。う。ご。し。と。ま。く。よ。う。あ。く。あ。つ。と。け。ま。ば。る。食。し。申
ハ。謹。み。く。あ。つ。と。が。原。来。殊。の。外。あ。る。と。好。の。ま。が
う。り。が。ゆ。多。又。獨。と。寐。の。間。さ。み。く。し。よ。又。妻。と。わ。り。
かく。た。や。と。思。ふ。正。は。け。里。あ。る。あ。吞。百。姓。は。室。屋。
といへる者。の。娘。は。お。系。と。く。今。年。十。九。也。又。ち。り
つる。が。美。面。う。し。ち。う。ら。か。う。し。け。ま。ば。杏。太。つ。て



老のこのお糸よひとけ何卒妻よせをやと
 下におとけまば然と窮作よはの金を貸それを
 そこの直まびしく返さばい金の方よお糸め
 お糸と我は得て存とて毎日日あも借促さるよ
 窮作も并にお糸の百疋つーが妻奴が
 も病のうへに死去るご返のますつごさくお
 負くくうの行ごさすぐよ六十は道き否ちつよ
 娘をつうよえんも不便と思ひさるくよことなるよ

言ひおたけとで更よ金を廻つてまごでもうく如
 何のせえと素ぐらひける頃の師きの
 世間の妻の然とくさめたご其の中窮作が
 家々火の消へつらご如く考ごまのかつり候のく
 く腹もるく老あつごらるる流くご飯ごらるも
 孝行る娘お糸がなせんの髪ごつめく瘦せ
 帯折ら入来る否あつりもあきつらるる
 老よハク得くもたご一孝よも取ぬらら

虫睡のそるるごとくあり
 昔ちの山油二十年のかさね
 よよの庭の御茶を引るそのよ
 まく綿入羽織とききく嘆むらひとニニニと
 窮作がうちの志きみとまきだるまうら
 一ツアイのめしる
 せ急ト上へあぐら窮作のそく 窮一イヤとまへ且
 ぬさぬよくはむらさきりまきこ
 一ツアイイヤ飾りよ
 もまはせぬおもモウある年ごとくごさるうら
 毎
 日くまるといき美ごとくごさるがけ振る夏を奉公人
 よあつうけておのくハ。えんと坊が明ぬあるとこで
 移が歩ゆトやが有りと難い夏よハまづ第一はが
 ちのちあ

達者ぐ目ハ目鏡いさらず又草双紙でも何ぐも
 よある。齒ハ大丈夫法漬でも込房でも厚く
 切らうとがらうくとせらうす。と直でふ何とて
 廿年や二十年ハ氣づらハあるまふと思てまへ
 ともとは私又私ぐ毎日足をたごるうらぐさみ
 ぬハま手せぬ先達とくまきるかまきく位つくよ
 又らうらうらまらよとく。私ガ伝性あるく可愛
 とらうの言やとあてもらうとらうよ五あといふ

の眉もでも落して送るでも解く能くさ
 今よそのよのよ見ゆくもさくさるじや
 得公とくこうがるけまが毎おつて理ふとらひしよな
 おもふも暮して居ることトヤウら女房と世帯と
 かみの妾とかへぬるえぞといふ者ハ毎日ある
 程のほどよの男代のゆつら考へ物か入る費が
 又妾といふ者も給合がぬるうよ衣被も
 させねばならぬ彼是とろく残が入るよよう

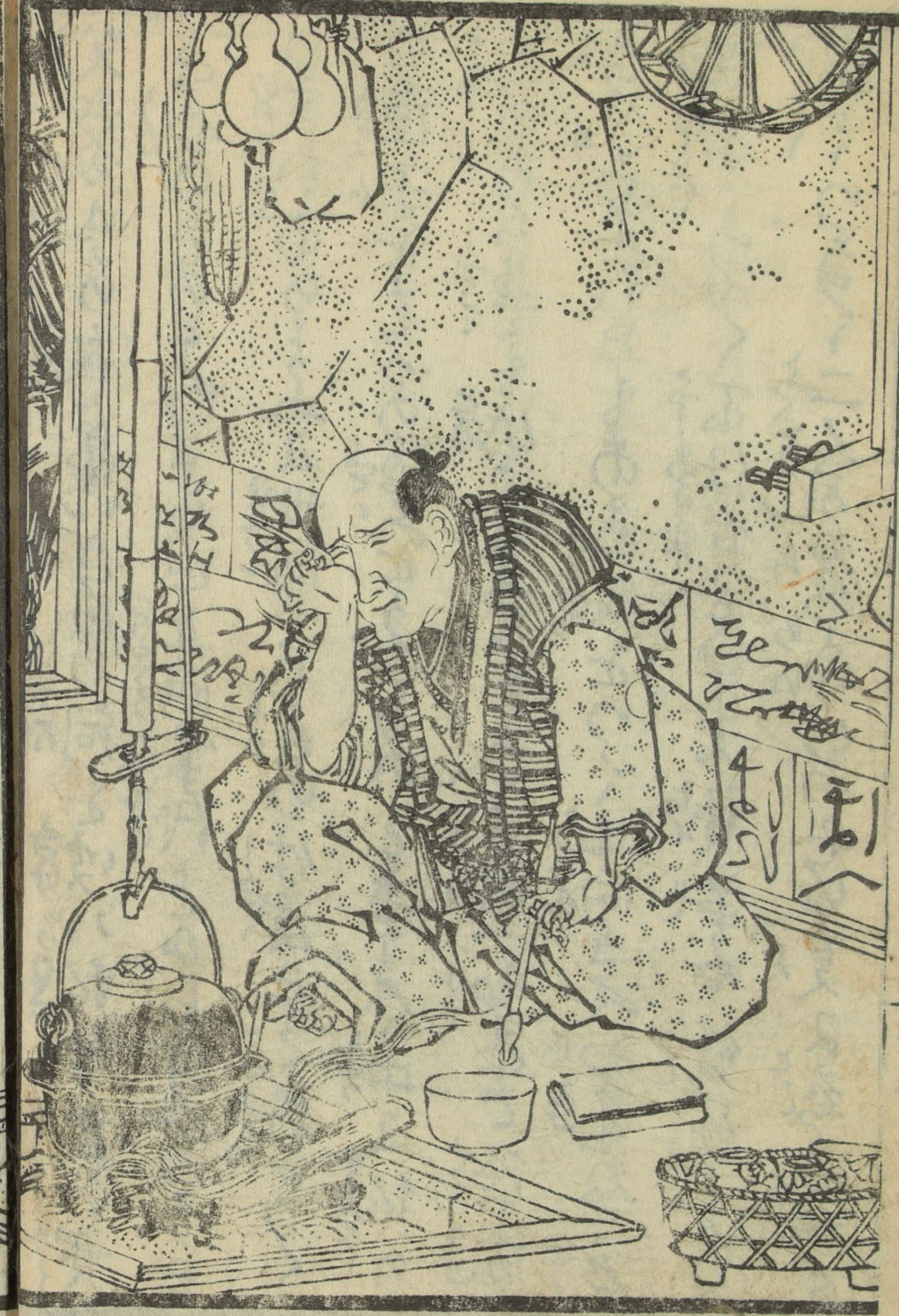
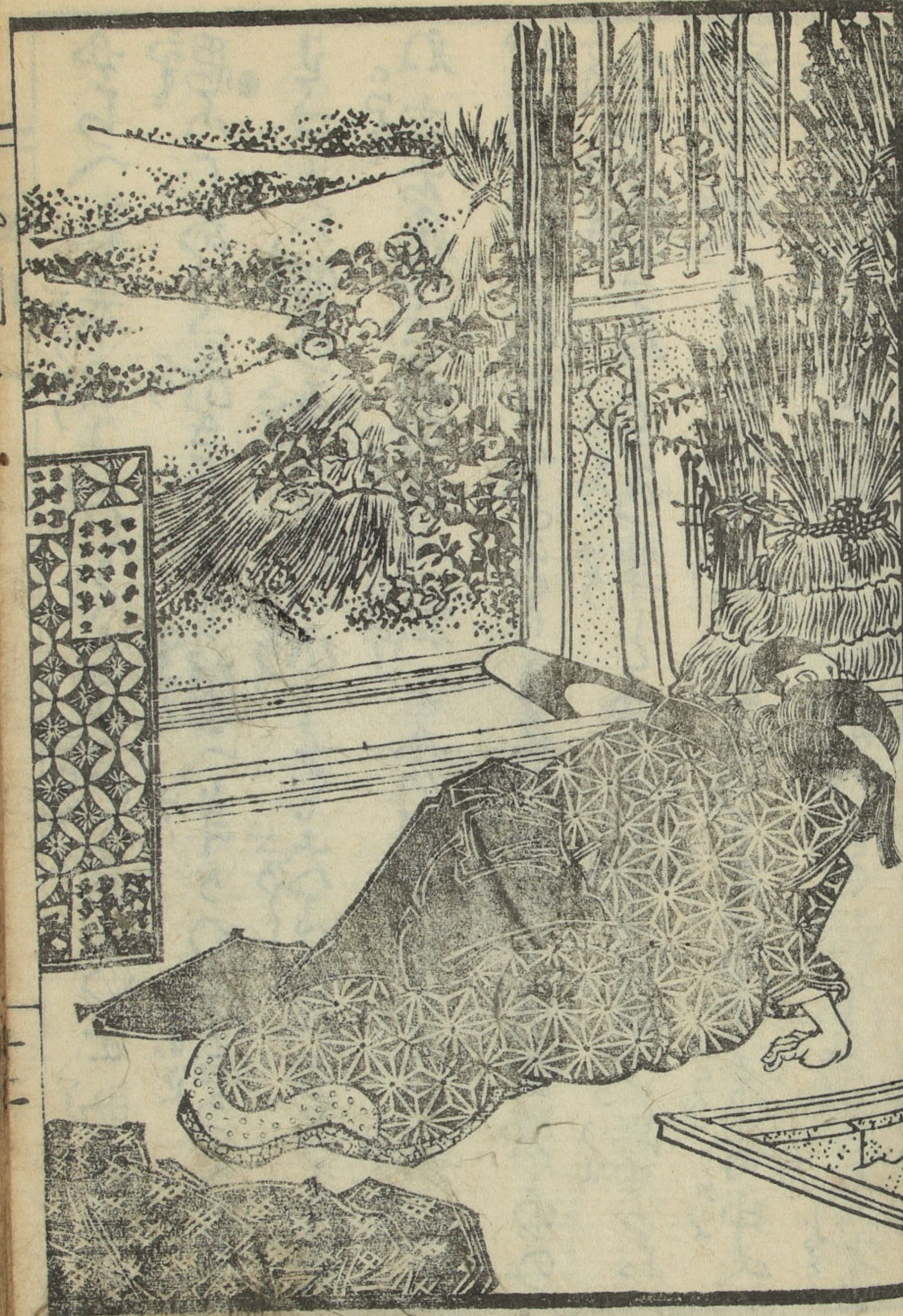
そとぐの相送あひだや。さうこの所の娘と何う
 よんごさまじバ。まが當分ハ給合るの妾がん始終
 ハ酒女房さけめかけもままをまのりのでもつら。そよま
 且バ娘むすめハ氏うぢのつておの興も同よあや我子の
 世よはるる夏なつやうら。らやがらめとも親おやがひよ
 ぬかさせるが當分あつちの男おとこのお係けいもあおはく
 よよ成なりてもよよたぬとら信しん不通ふつうやうの
 賢けんへん。さうのよのよの賢けん人ひとが親おやはあつて

徳のいへも又六つあり。そまゝか下不兼知るまじ。是報とも
今らつていふ事しやがとちつてでも不倍をあたへて換投
さらしやるがよひト。めづつとまゝつてく言ひつづら。お示
か方とるに在る目ハ細くさつてつて誣さるる。うら
る死こそ可笑けは窮作ハ心のうち片後ひつて
賢人ども詮方るのまじ。窮イヤモウ今又たたへて
あるこのハ深切。うらつて娘と山野堅さのたつた
まする。後親の男よとつてまゝしてつたつてうらつて
あ

難か六つござります。まじとけいひのたつてのうらつても親の
僕ももうのませぬもの。うらつて晦日とやまゝしてま
最早間もござりませぬ。うらつてまゝしてまゝして
たら。早速お合らしてまゝして。一変よらつてまゝして
うらつても二変よらつても。あつてのよらつてまゝして
うらつてもまゝして。うらつて下つてまゝして下つてまゝして
各々ハ不貞親よ。まゝしてまゝしてのうらつても
の。は遺ハ親の自由よ。うらつてまゝしてまゝしてまゝして。

有つことさうさうの者ハ後ハありと口きりや女を
よぶハ金の莫と緋猪者流の清誓うべらる哉
彼の細布屋各々糸の窮作が娘お糸とわとらんと。
金とせらさる毎理催促日來る迄ハ否意の
返のせよと詞とつぐへ家路へこそハ立返る迄よ
窮作がさうらうつむき娘のふ前面目うぐ齒を
ふひ志をりてつぐぐと我をを悔まぐらうか。
お糸ハ父が御所うちおひかりとく傍へよりお糸「中

父さる今の各と後いさぬの詞とばハ私と金との貸
こ金のそのうへよまごこ五兩帯代とからよ女ううと
の言かあのよめよ世間やうまの仕度とく餅をつく
の障子とたるのあまどうのこしつぐ中よ私の
肉のみらあまもけいよよはまましくはあまがわまご塗方
らう。そまらともあまは隣とつう工面さくおまのあま
理年くつぐく石は合ここか貸さるや借ははるのて
あまうつぐく二人があま命しつその莫よあまの隣と





百頭揚

滑

井坂

南亭
井坂一清

五
一

志と各々の邪見のひよも奈何する病世のやふ候は
おのひ養ひの各々の志のどくうやまひの私
うく勤めしう行末の娘おきぬは妻合して網布の
家督とつぐせかめと思ひ居しうと各々のお系
をゆくと渠がうきよおびきそのまもる果はあ
るぬさまどお給ハナや生心を知る年うまが兼く
公のうちより深女をまてと思ひのくら傍よ人うた
折るえどふく目と以てくまじと扱みけまど従来物

堅きしきまの添助主の娘うまが仮初しも我ます
いそず。わたりへもよらざるとけま。お結ハいづくの
うちよ其強面を眼みぬ。おるよりの程うら女房
お系深女が柔和るる男振よむをうやまうけまど
ひよの関よひひよるべきまてもろく只徒よ自まの
こがしけるが内く娘お結と妻合へきま人のひらる
よしよとゆくと疾妬ことかきりるく。まがそのお結
おめさせんと各々のへ深お結よお結がまを疾奉

けろぞうくくけき。実の女の性も僻りて天の智者
大匠の宜ひ一もうぶるもや。遠く

玉川日記卷之一終

松月 玉川日記卷之二
露譚

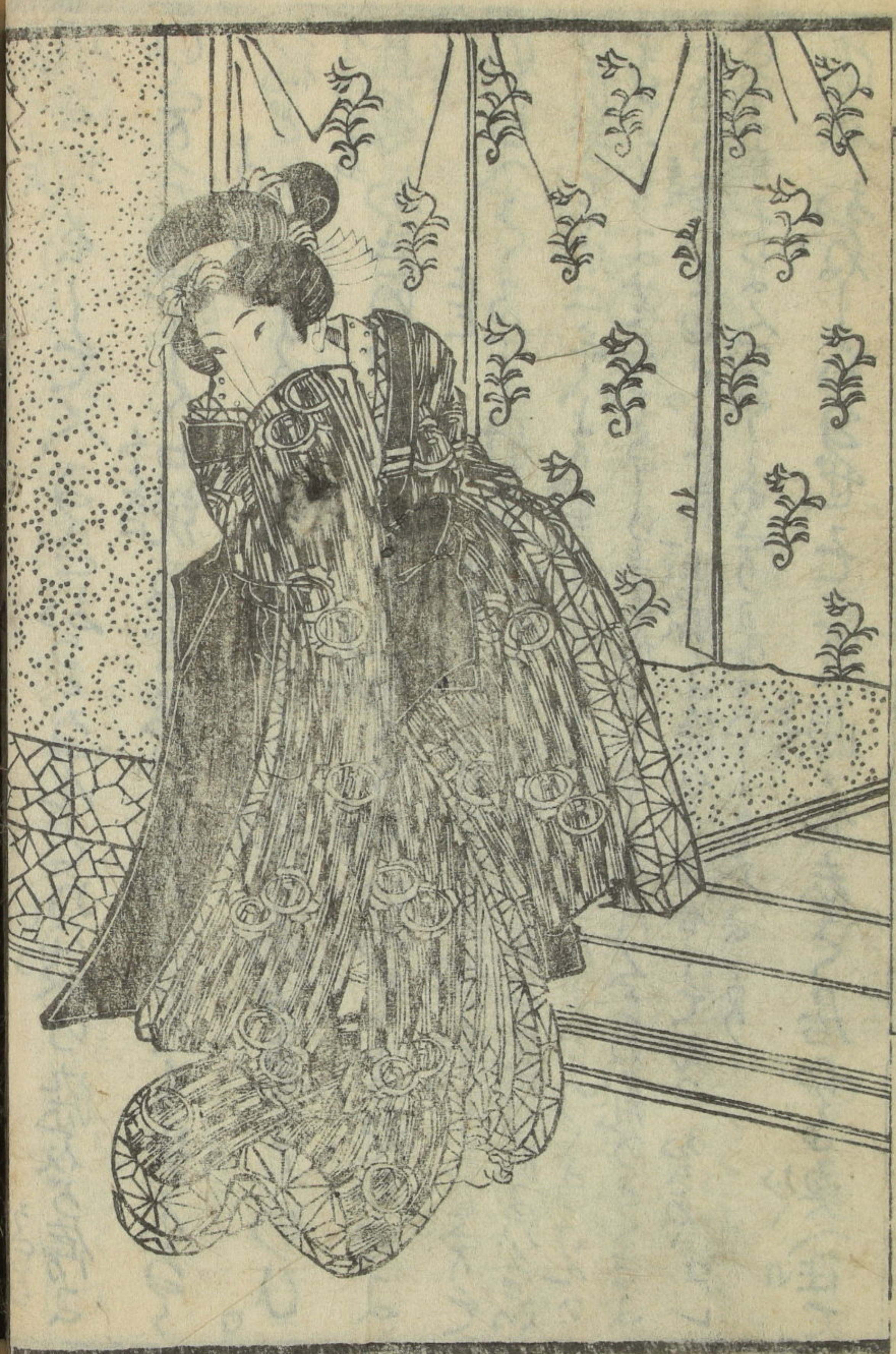
江戸 南仙笑楚満人作

第三回

衆の仙人ハ物洗ハ女の脛の白き又通をうらむひ。
天竺の一角仙人ハ仙灵羅女が鳥又終又山とくご
まり。絨や六塵の樂慾を壓離あつべしと雖も。
惑ひのひとり耳差ころも。智あるも。あつる
もつまる所ハ慕慕可愛の外あらど。さまが男女の

淫樂と貞骸とをいごと堅くゆけ一毛唐人も。
 湯あぐりの肥肉者も。必涎と整ふ侍のべく。骸骨
 の上を化粧ふと悟つる世捨人も。花見連の後帽
 子もハ空め一腰とぬるときへみる。死んで再来釈迦
 の方でも。羅候羅が母ハあつてけし。況や今の太
 欲凡夫いつでることと悟らまへや。去る程は洞布を
 各ち履つハさしも岩丈ある若人ものしからる。年
 波の是非もるや。は程ハ中風のよふるる氣味のそく

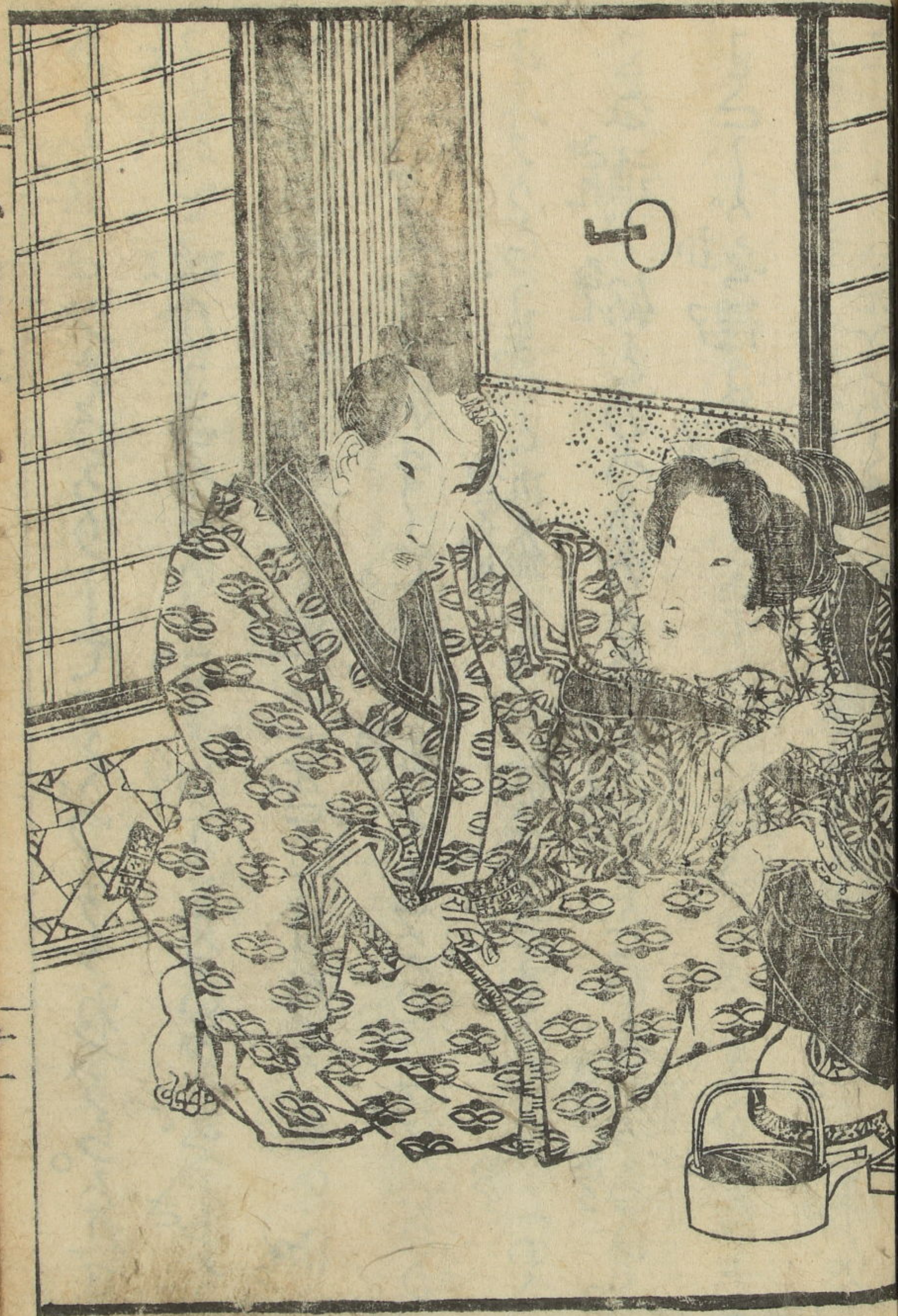
けは為さるす言活もころの難くは歩も自在なる
 ず。只お糸のそ克その詞と波とけく用を又と存ド
 けまが。日すくお糸が威勢強く。細布屋が為代ハ
 只席のさへとも起さへとも。渠の心のまゝあつける。
 大凡人のよよへん人。その長下と愛するのあまら。
 其権と臣の貸と夏の甚き時ハ却くまゝ家と
 しよまよふる。又夫の妻よきを威勢と奪せんるも。
 皆と色とせがめ寵愛のするはよちとしく。後よ悔る

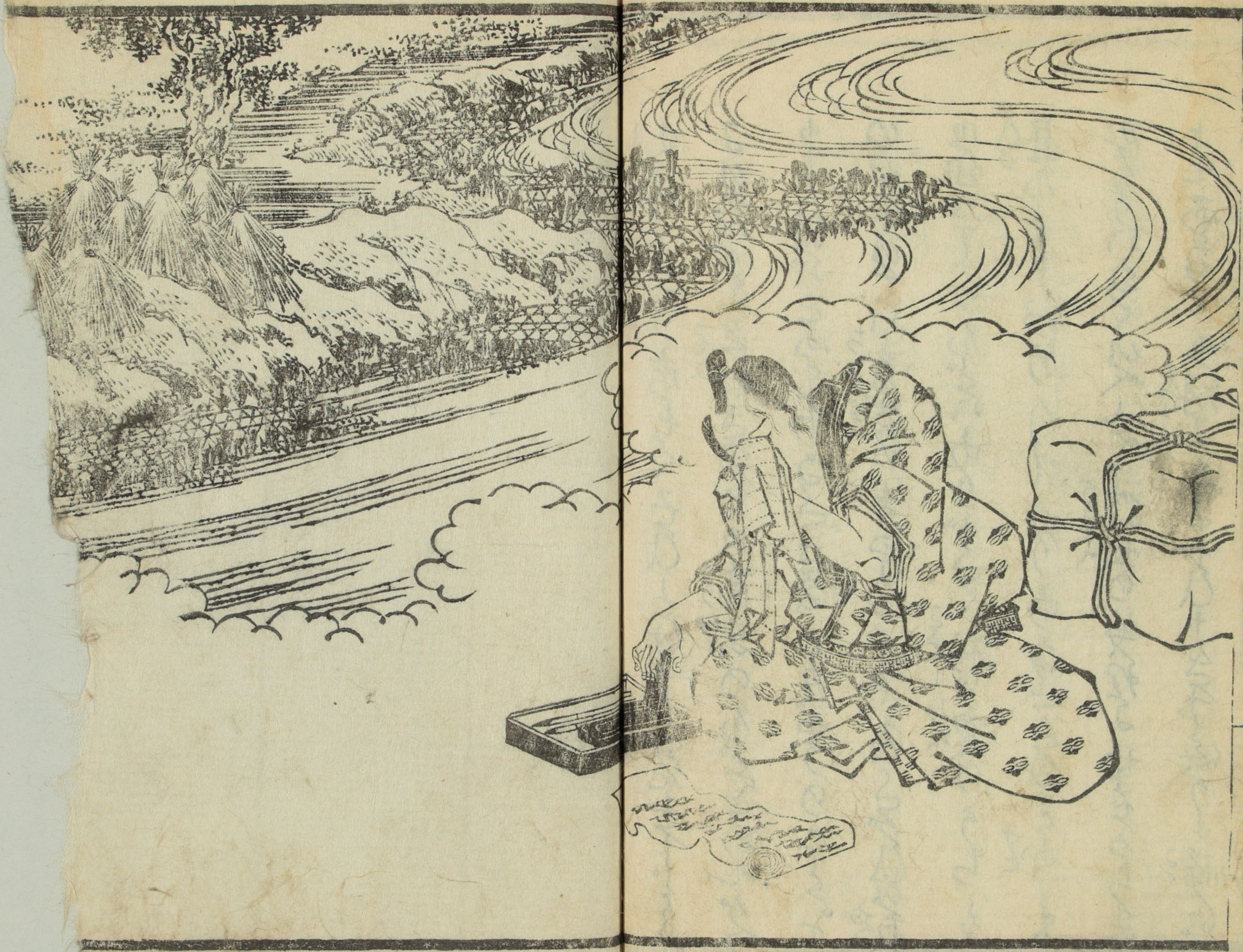


五川

よくおれまこと。元みく口ハ須法まののこ。老みく
 悔しの復がくろ。「泪わろつこと一帯百千倍の倍
 菊のあどる死ゆえ汲くある。涙みも夢をむそあ
 涙「こまかく、あろこいてるぬハ何とそいふはあろ死
 うまされます。私が酒の嫌ひる夏ハ常くくろら
 血ぞん—でんじびりのませぬら。そまよそのよふる
 夢裡がろろり。ろろおが血月美さるのの例入まの
 まして血酒のお相まよSW—夏ぶとせいのます

「そる夏よりゆめら。二三日迄の夏まの志
 つまらひる。あぬ—らそよひの勝ぬ—。こまかくあ母え
 ハ美貞しのう入は油ハ木村がりの白粉ハ京搦か
 りろり新屋とから坂本氏の仙女香がりののと
 あり—あひく化粧よむろりかくつこお出るさる
 ののと。こまこく—るえぞの脱面ごくら。そえる夏と
 まるしと人が笑ふろら。髪ハ出来も老ね入るで
 つくおなかくあく—白粉や紅るんぞもけをく—





五ノ
一ノ

十七

おまをて中のかきうるの夏(こ)入中のこしひま(ま)き
 且般(え)さぬるぞ此(ま)まきと好(ま)しり(ま)る(ま)る(ま)り(ま)と(ま)あ(ま)
 者(ま)みとぞと(ま)い(ま)は(ま)母(ま)ら(ま)ん(ま)の上(ま)あ(ま)て(ま)何(ま)卒(ま)公(ま)申(ま)
 と好(ま)人の目(ま)よ(ま)か(ま)ら(ま)ぬ(ま)よ(ま)あ(ま)は(ま)ね(ま)み(ま)上(ま)り(ま)これ
 の(ま)ま(ま)家(ま)の(ま)ま(ま)い(ま)の(ま)ま(ま)ま(ま)く(ま)何(ま)の(ま)も(ま)泪(ま)は(ま)筆(ま)の
 た(ま)ぞ(ま)も(ま)こ(ま)ら(ま)ず(ま)中(ま)よ(ま)く(ま)た(ま)り(ま)も(ま)あ(ま)や(ま)さ(ま)た(ま)よ(ま)お
 成(ま)つ(ま)中(ま)の(ま)返(ま)ま(ま)て(ま)ぐ(ま)も(ま)夫(ま)婦(ま)の(ま)二(ま)世(ま)と(ま)女(ま)の(ま)中(ま)の(ま)ま(ま)を
 再(ま)世(ま)の(ま)妻(ま)と(ま)よ(ま)び(ま)夫(ま)と(ま)よ(ま)ま(ま)ま(ま)は(ま)老(ま)の(ま)終(ま)り(ま)と(ま)を

し(ま)の(ま)念(ま)か(ま)ま(ま)と(ま)あ(ま)ひ(ま)ん(ま)と(ま)返(ま)く(ま)お(ま)を(ま)
 ひ(ま)か(ま)ま(ま)て(ま)く(ま)ぞ(ま)と(ま)い(ま)ら(ま)く(ま)中(ま)の(ま)ま(ま)く(ま)ま(ま)の(ま)山(ま)く
 よ(ま)ひ(ま)成(ま)も(ま)人(ま)目(ま)の(ま)世(ま)は(ま)よ(ま)く(ま)い(ま)ら(ま)し(ま)ら(ま)し

あらしくし

流(ま)ぬ(ま)

お系(ま)さ(ま)ぬ(ま)

ト(ま)續(ま)も(ま)終(ま)ら(ま)ず(ま)お(ま)系(ま)の(ま)狂(ま)氣(ま)の(ま)ぞ(ま)く(ま)周(ま)章(ま)早(ま)て(ま)終(ま)る(ま)ま(ま)の
 ひ(ま)ぐ(ま)斯(ま)く(ま)人(ま)の(ま)目(ま)は(ま)ね(ま)ど(ま)流(ま)ぬ(ま)ら(ま)ぬ(ま)と(ま)そ(ま)入(ま)る(ま)

せしもさるしとせしむて（さうせうのせしむ）早速るあ練とせしむる人おや
 ひくむ川おせしむ川をいせしむるのりぬせしむる
 あつし（おんせうのせしむ）早ゆ方へ流し（なが）しや更（おんせう）よは（おんせう）とて入
 りせしむりけしむお糸お縮（おんせう）くちぎき（おんせう）た（おんせう）く（おんせう）す（おんせう）お縮ハ
 深（おんせう）女（おんせう）母（おんせう）お糸（おんせう）が（おんせう）意（おんせう）暴（おんせう）よ（おんせう）詮（おんせう）方（おんせう）く（おんせう）入（おんせう）る（おんせう）る（おんせう）ら（おんせう）が
 せしむく我へ一言さるしとすしひ残し（おんせう）ま（おんせう）た（おんせう）く（おんせう）おし（おんせう）の（おんせう）おし（おんせう）の（おんせう）
 き六強面（おんせう）の（おんせう）く（おんせう）る（おんせう）と（おんせう）根（おんせう）み（おんせう）る（おんせう）け（おんせう）き（おんせう）重（おんせう）き（おんせう）極（おんせう）は（おんせう）ち（おんせう）外（おんせう）ける（おんせう）
（おんせう）が（おんせう）昼（おんせう）夜（おんせう）の（おんせう）く（おんせう）ち（おんせう）ち（おんせう）く（おんせう）あ（おんせう）つ（おんせう）ぐ（おんせう）は（おんせう）終（おんせう）は（おんせう）一（おんせう）月（おんせう）を（おんせう）る（おんせう）の（おんせう）お（おんせう）ん（おんせう）て

染（おんせう）女（おんせう）が（おんせう）死（おんせう）せし（おんせう）日（おんせう）は（おんせう）あ（おんせう）つ（おんせう）て（おんせう）た（おんせう）ら（おんせう）う（おんせう）く（おんせう）の（おんせう）い（おんせう）く（おんせう）が（おんせう）
 菩提（おんせう）の（おんせう）る（おんせう）る（おんせう）玉（おんせう）川（おんせう）道（おんせう）光（おんせう）寺（おんせう）へ（おんせう）ら（おんせう）う（おんせう）む（おんせう）ら（おんせう）あ（おんせう）ま（おんせう）ま（おんせう）の（おんせう）い（おんせう）け（おんせう）
 て怪（おんせう）し（おんせう）く（おんせう）く（おんせう）お（おんせう）縮（おんせう）が（おんせう）実（おんせう）母（おんせう）世（おんせう）は（おんせう）あ（おんせう）つ（おんせう）し（おんせう）ら（おんせう）う（おんせう）し（おんせう）た（おんせう）く（おんせう）
 中（おんせう）へ（おんせう）つ（おんせう）え（おんせう）業（おんせう）と（おんせう）善（おんせう）念（おんせう）と（おんせう）白（おんせう）根（おんせう）と（おんせう）以（おんせう）て（おんせう）作（おんせう）り（おんせう）て（おんせう）一（おんせう）叙（おんせう）
 跡（おんせう）は（おんせう）秘（おんせう）考（おんせう）し（おんせう）て（おんせう）常（おんせう）は（おんせう）改（おんせう）と（おんせう）た（おんせう）ら（おんせう）う（おんせう）し（おんせう）た（おんせう）つ（おんせう）し（おんせう）ら（おんせう）う（おんせう）が（おんせう）お（おんせう）ん（おんせう）な（おんせう）が（おんせう）
 ま（おんせう）ま（おんせう）ぐ（おんせう）り（おんせう）一（おんせう）日（おんせう）し（おんせう）ら（おんせう）う（おんせう）の（おんせう）叙（おんせう）う（おんせう）せ（おんせう）く（おんせう）更（おんせう）は（おんせう）志（おんせう）し（おんせう）た（おんせう）つ（おんせう）け（おんせう）
 ま（おんせう）ぶ（おんせう）價（おんせう）貴（おんせう）い（おんせう）し（おんせう）の（おんせう）め（おんせう）の（おんせう）ら（おんせう）ま（おんせう）ぶ（おんせう）下（おんせう）女（おんせう）ら（おんせう）え（おんせう）ど（おんせう）が（おんせう）流（おんせう）し（おんせう）た（おんせう）ら（おんせう）う（おんせう）て（おんせう）
 の（おんせう）ら（おんせう）ら（おんせう）ん（おんせう）と（おんせう）た（おんせう）ら（おんせう）へ（おんせう）家（おんせう）内（おんせう）と（おんせう）詮（おんせう）し（おんせう）美（おんせう）志（おんせう）し（おんせう）た（おんせう）つ（おんせう）し（おんせう）ら（おんせう）う（おんせう）て（おんせう）行（おんせう）

東へ一向寺に於て古蹟に於て
 ありて
 ありて

玉川日記卷之二終

三十一

松月 露談 玉川日記卷之下

江戸 南僊笑楚滴人 合作

第五回

盛者必衰の理なきものづるべき樂しみに尽て哀を
あはれ是浮世のありさぬものて天人も又五衰の日
あつたや。さても道なき肩をさらけたる者も死
纏布屋の長者とてさきく客を待つかはるるあはれ

玉川下

五ノ川
以て作らるる御書のけしき大なるおとろきあり何
ましくはと跡はからぬのありき御書にありし御書
定めては子に授けしものありし御書にありし御書
おぼしきの御書に唐土の書籍よもよもよは似たり
ことまり後はしつゝ自らあるまじき御書にありし御書
町人より御書にありし御書にありし御書にありし御書
携へて我が家へ入るゝ御書にありし御書にありし御書
愛して書かすも御書にありし御書にありし御書にありし御書

も彼の御書にありし御書にありし御書にありし御書
亦るべし。この御書にありし御書にありし御書にありし御書
とまるる御書にありし御書にありし御書にありし御書
御書にありし御書にありし御書にありし御書にありし御書
御書にありし御書にありし御書にありし御書にありし御書
御書にありし御書にありし御書にありし御書にありし御書

第六回

君子ハ尺の壁に貴とをさしつゝすの陰を暗むと
光陰のまじき御書にありし御書にありし御書にありし御書

御書にありし御書にありし御書にありし御書

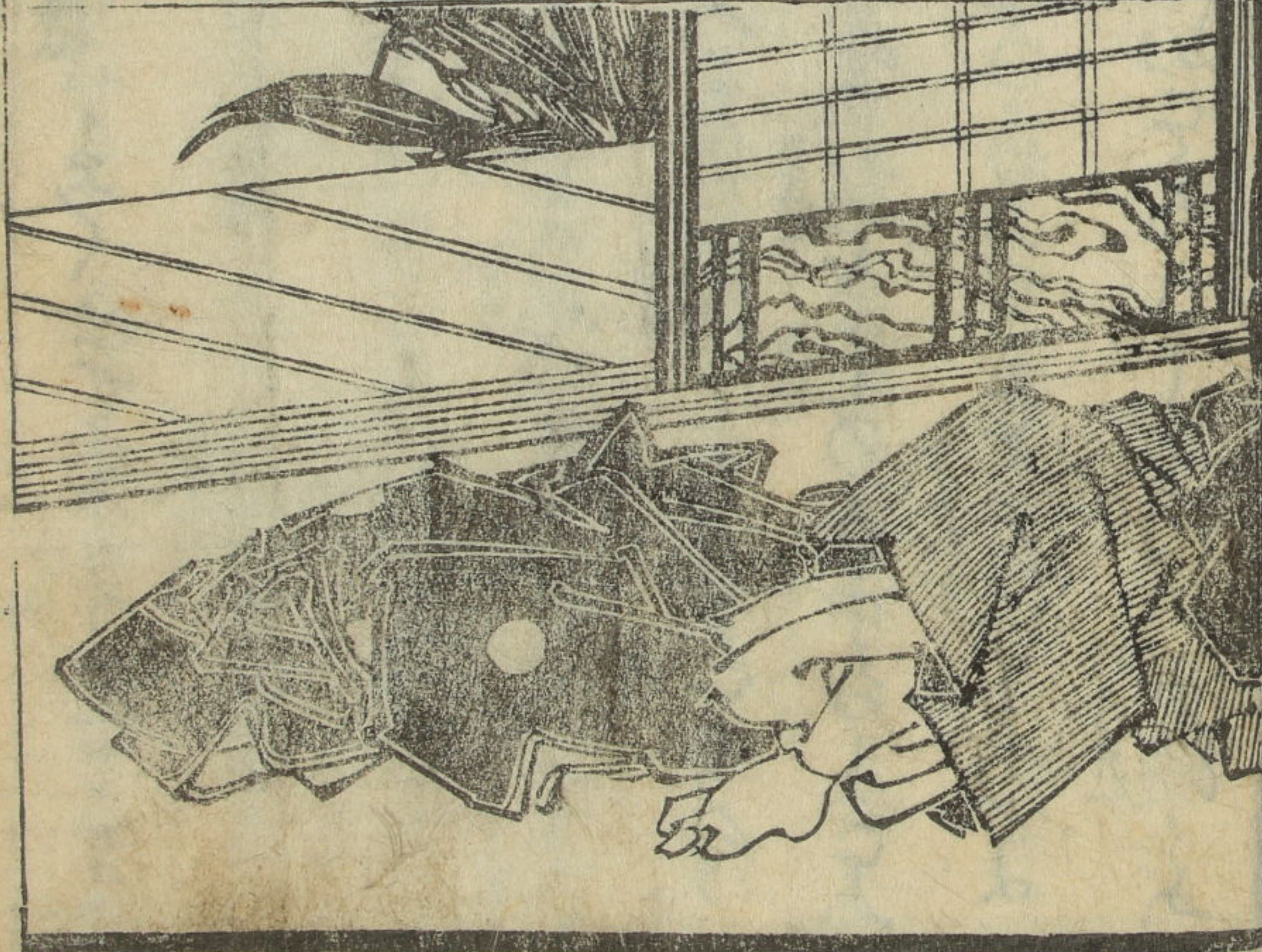
111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 530
 531
 532
 533
 534
 535
 536
 537
 538
 539
 540
 541
 542
 543
 544
 545
 546
 547
 548
 549
 550
 551
 552
 553
 554
 555
 556
 557
 558
 559
 560
 561
 562
 563
 564
 565
 566
 567
 568
 569
 570
 571
 572
 573
 574
 575
 576
 577
 578
 579
 580
 581
 582
 583
 584
 585
 586
 587
 588
 589
 590
 591
 592
 593
 594
 595
 596
 597
 598
 599
 600
 601
 602
 603
 604
 605
 606
 607
 608
 609
 610
 611
 612
 613
 614
 615
 616
 617
 618
 619
 620
 621
 622
 623
 624
 625
 626
 627
 628
 629
 630
 631
 632
 633
 634
 635
 636
 637
 638
 639
 640
 641
 642
 643
 644
 645
 646
 647
 648
 649
 650
 651
 652
 653
 654
 655
 656
 657
 658
 659
 660
 661
 662
 663
 664
 665
 666
 667
 668
 669
 670
 671
 672
 673
 674
 675
 676
 677
 678
 679
 680
 681
 682
 683
 684
 685
 686
 687
 688
 689
 690
 691
 692
 693
 694
 695
 696
 697
 698
 699
 700
 701
 702
 703
 704
 705
 706
 707
 708
 709
 710
 711
 712
 713
 714
 715
 716
 717
 718
 719
 720
 721
 722
 723
 724
 725
 726
 727
 728
 729
 730
 731
 732
 733
 734
 735
 736
 737
 738
 739
 740
 741
 742
 743
 744
 745
 746
 747
 748
 749
 750
 751
 752
 753
 754
 755
 756
 757
 758
 759
 760
 761
 762
 763
 764
 765
 766
 767
 768
 769
 770
 771
 772
 773
 774
 775
 776
 777
 778
 779
 780
 781
 782
 783
 784
 785
 786
 787
 788
 789
 790
 791
 792
 793
 794
 795
 796
 797
 798
 799
 800
 801
 802
 803
 804
 805
 806
 807
 808
 809
 810
 811
 812
 813
 814
 815
 816
 817
 818
 819
 820
 821
 822
 823
 824
 825
 826
 827
 828
 829
 830
 831
 832
 833
 834
 835
 836
 837
 838
 839
 840
 841
 842
 843
 844
 845
 846
 847
 848
 849
 850
 851
 852
 853
 854
 855
 856
 857
 858
 859
 860
 861
 862
 863
 864
 865
 866
 867
 868
 869
 870
 871
 872
 873
 874
 875
 876
 877
 878
 879
 880
 881
 882
 883
 884
 885
 886
 887
 888
 889
 890
 891
 892
 893
 894
 895
 896
 897
 898
 899
 900
 901
 902
 903
 904
 905
 906
 907
 908
 909
 910
 911
 912
 913
 914
 915
 916
 917
 918
 919
 920
 921
 922
 923
 924
 925
 926
 927
 928
 929
 930
 931
 932
 933
 934
 935
 936
 937
 938
 939
 940
 941
 942
 943
 944
 945
 946
 947
 948
 949
 950
 951
 952
 953
 954
 955
 956
 957
 958
 959
 960
 961
 962
 963
 964
 965
 966
 967
 968
 969
 970
 971
 972
 973
 974
 975
 976
 977
 978
 979
 980
 981
 982
 983
 984
 985
 986
 987
 988
 989
 990
 991
 992
 993
 994
 995
 996
 997
 998
 999
 1000



けつんハ何じう馬鹿ばかのよ
 るまよひく何なにもあつた
 はせぬいといはれは思おもひ
 ちちはさくくくくままままでぶ
 ざつはままうが。私わたしも年
 がひままへく。いいままままま
 ちちはさくくくくくくくくく
 ちちはさくくくくくくくくく
 ちちはさくくくくくくくくく



さんがも母ははをいはさいんん
 るるくくはははははははははは
 ちちはさくくくくくくくくく
 ちちはさくくくくくくくくく
 ちちはさくくくくくくくくく
 ちちはさくくくくくくくくく
 ちちはさくくくくくくくくく
 ちちはさくくくくくくくくく
 ちちはさくくくくくくくくく



三ノ谷町三丁目角

西村与八郎

江戸

通油

町

為永長次郎

書房

湯島加通樓

新見伊三郎

